

『情報デザイン』を学ぶ意味

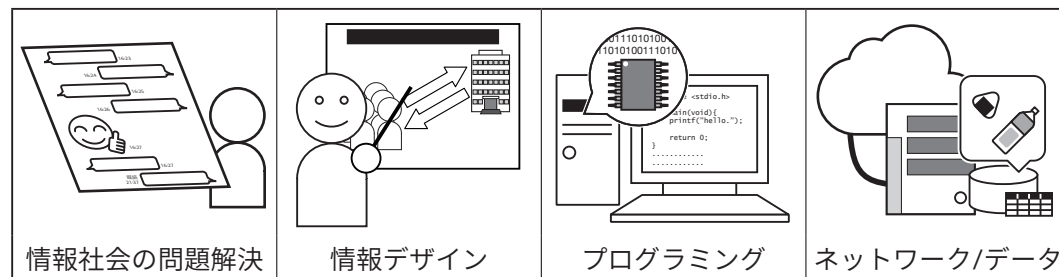
新学習指導要領「情報I」に向けて、「プログラミング」ばかりが取り上げられますが、実は「情報デザイン」が入っていることを見落としていませんか？「プログラミング」とともに「情報デザイン」も実践を積み上げていきませんか？

(2017年12月26日 情報科実践事例報告会2017)

■ 情報デザインの考え方

新学習指導要領「情報I」

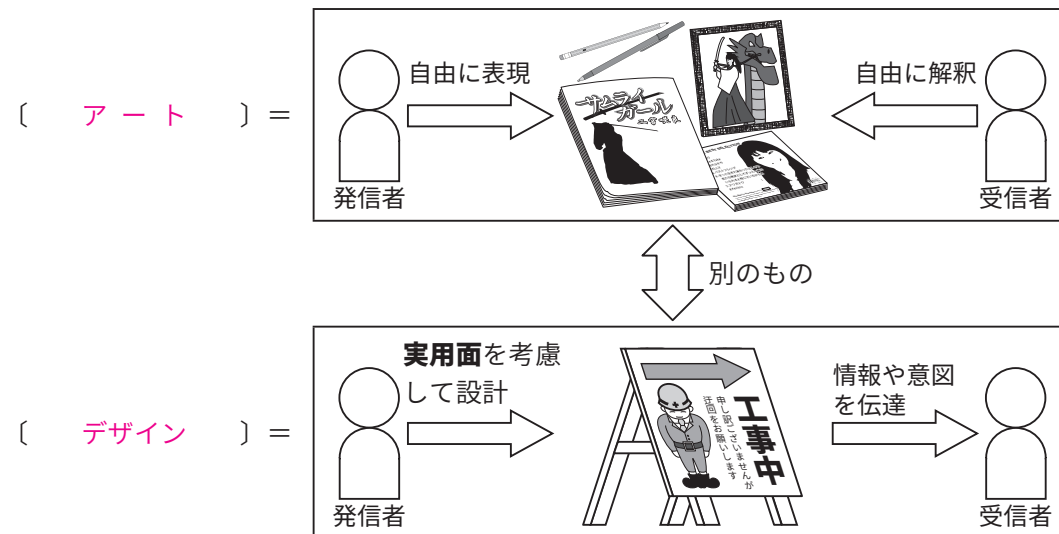
新学習指導要領「情報I」で学習する4つの内容



プログラミングにばかり目がいきがちであるが、4つの内容がある

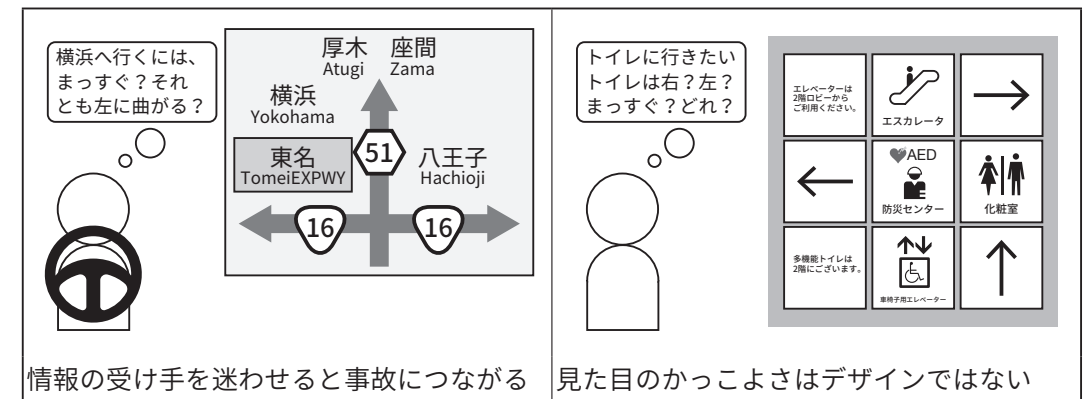
情報デザインの考え方

デザインとアートのちがいを



デザインをアートと混同していませんか？

情報デザインの考え方



デザインは、情報の受け手に確実に情報が伝達しなければ意味がない

情報デザインを学ぶ意味

情報デザインの世界で起きている悲劇

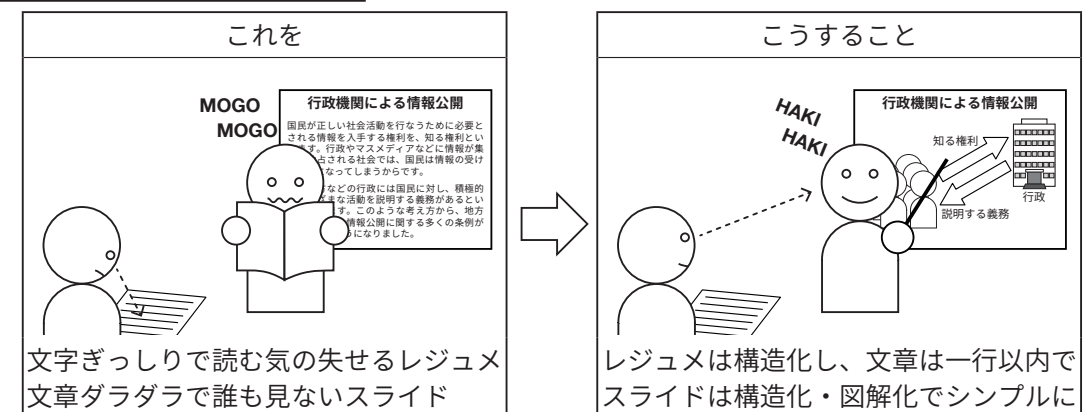


依頼する側が情報デザインについて知ることが大事

もちろん、ちょっとしたものなら自分たちで作ることも

プログラミングの世界で起きていることと同じことが起きている！

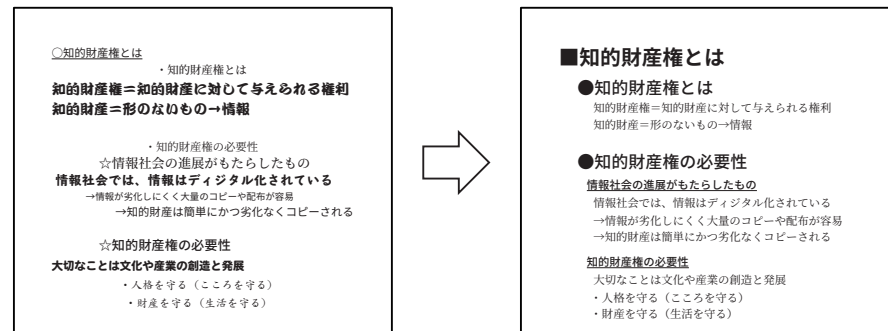
情報デザイン教育の目指す方向



■ 情報デザインの授業事例

情報の構造化

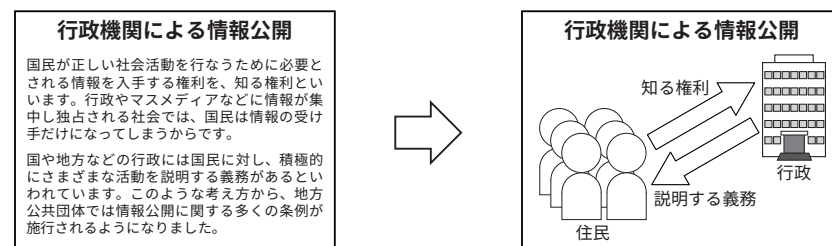
文書処理ソフトウェアのアウトライン機能を用いた文書の構造の理解



どのように情報を整理しながら提示していくかを考える

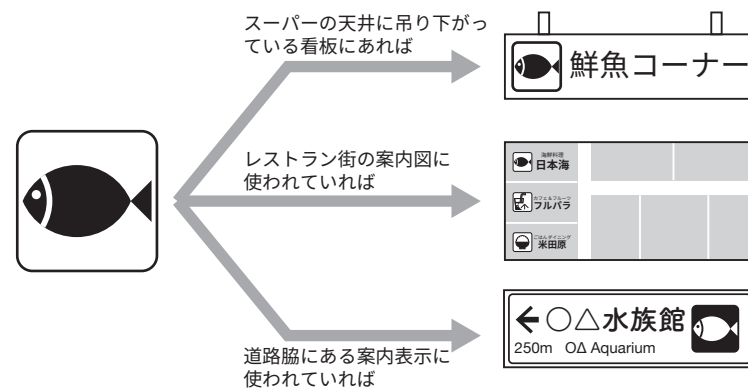
情報の図解化

プレゼンテーションの際の情報の見せ方



伝えるべき情報は何なのかということを考える

ピクトグラムの制作



その情報は、どのような状況で誰に対して伝えられるのかを考える

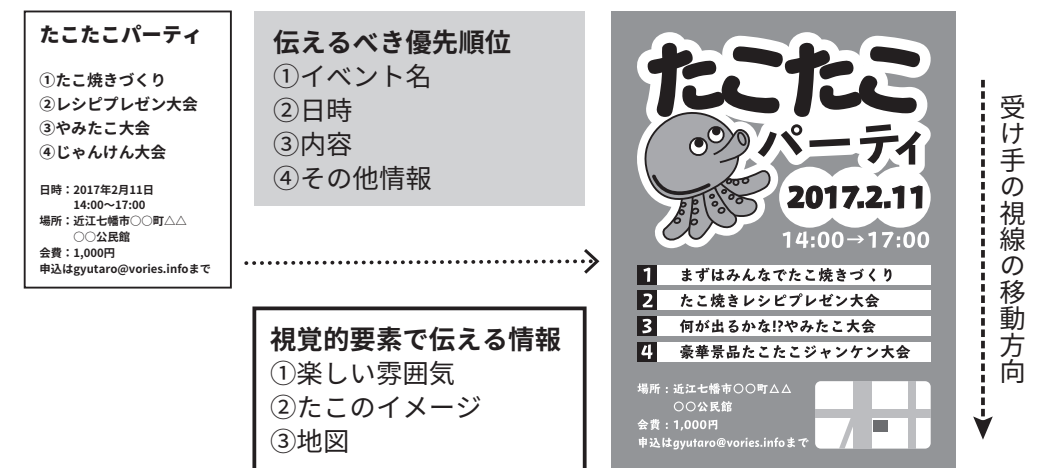
数値グラフの見せ方



※「データの活用」の観点の主眼ではあるが、「情報デザイン」の考え方につながる

情報の受け手がどのような印象で受け取るかを考える

ちらしのレイアウト



情報を伝えるべき順序を考える

※授業時間数や年間の授業のバランス等の関係でこの授業は実施できていない

長谷川友彦

滋賀県草津市在住（大阪府枚方市出身）
近江兄弟社高等学校教諭（理科・情報科、進路指導、高大連携）
近畿高等学校演劇協議会劇作連絡会滋賀県代表幹事
キーワード：高校演劇、情報教育、高大連携

